

「大将季」の無加温ハウス栽培におけるジベレリン散布による生理落果の軽減

無加温ハウス栽培「大将季」は、ジベレリン25ppmを満開1日後に散布すると、生理落果を軽減

背景・目的

- ・ 無加温ハウス栽培「大将季」は、生理落果期の高温により、落果が助長され、収量の低下が問題となっている
- ・ 「不知火」の落果防止にジベレリン散布効果が認められている
- ・ 無加温ハウス栽培「大将季」において、生理落果を軽減するため、散布時期と処理濃度を検討する

成果の内容

ジベレリン25ppmを満開直後に散布することで、生理落果を軽減

無加温ハウス栽培「大将季」は、開花期にジベレリン25ppmを散布することで結果率が高まり、満開1日後の効果は高い

散布時期	満開47日後	
	結果数 (個/樹)	結果率 (%)
満開1日後	30.7	24.3
満開8日後	23.3	20.5
無処理	16.0	13.1



散布時期	調査果実重 (g)	糖度 (° Brix)	クエン酸含量 (g/100ml)
満開1日後	306.8	13.3	0.80
満開8日後	299.0	13.4	1.05
無処理	328.5	13.6	0.82

果実品質には
影響しない

導入
メリット

ジベレリン散布により収量が安定



有葉花数の不足により、
結果不足が予想される
場合に使用

結果過多になる場合には、
地域の基準に準じて
摘果

ジベレリン散布による経費は約11千円/10a
(濃度25ppm, 散布量100Lで試算)

10%の結果安定により、
約194千円/10aの収益回復が見込まれる
(収量363kg × 534円で試算)

期待される効果

- ・ 無加温ハウス栽培「大将季」の安定した収量の確保

普及対象・範囲
無加温ハウス栽培「大将季」生産者